

大学**アーカイブズ**

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2020.11.30 №.63

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division**目 次**

・瀬戸口龍一「コロナ禍における専修大学の周年事業」	1
・古俣 達郎 「コロナ禍における大学史関連業務の現状について：HOSEIミュージアムの場合」	3
・田中 智子「コロナ禍における早稲田大学大学史資料センター関連業務の現状」	6
・松原 太郎「第119回研究会に参加して」	8
・全国大学史資料協議会東日本部会2020年度総会記録	10
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	16
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	19

2020年10月1日（木）オンライン研究会（119回東日本部会研究会）

コロナ禍における専修大学の周年事業

専修大学大学史資料室 瀬戸口龍一

はじめに

2020年、専修大学は創立140周年を迎えた。専修大学では、規模に大小の差はあるが、10年毎に周年記念行事を実施している。当然、創立140周年に向けても2、3年前からその準備を行ってきたが、今年2月以降、本格化していった新型コロナウイルス感染症の大流行により、予定していた種々の記念行事の中止・延期・変更を余儀なくされた。本報告では、コロナ禍のなかで専修大学が周年事業とどのように向き合ったかについて、述べることとする。他大学の参考になれば幸いである。

周年事業年の変更と予定していた周年事業

専修大学の創立は1880（明治13）年である。創立120周年および130周年の記念事業は1999年と2009年に行っており、実は創立140周年も当初、昨年の2019年に予定していたが、2017年、神田キャンパスに建設していた新校舎の竣工にあわせる形で、周年事業年度を変更する決定が下された。そのため、新型コロナの影響を大きく受けたことになった。

なお、2017年12月段階で計画していた周年事業は以下のようなものである。

- ①式典・祝賀会の開催／②教育・研究を広く学内外に伝える講演・シンポジウムの開催／③附属高校・教育交流提携

校・高大連携協定校と連携した企画／④地域と連携した企画／⑤校友の協力による企画（企業経営層による講演など）／⑥学生と協力した企画

（学生オーケストラによる記念演奏会など）／⑦本学の歴史を学内外に広く伝える展示会の開催／⑧140周年記念誌の刊行／⑨その他（図書館貴重図書の展示、物故者追悼式など）

こうした種々の記念行事が計画されていたが、それでも、ホテルの大ホールを借りて式典を開催するというような、盛大な行事を実施する予定はそもそもなかった。というのも創立150周年をある程度、大きな形にせざるを得ないため、140周年は費用的に抑えたいという意図があったためである。その意味では、創立140周年事業のメインイベントは、新校舎のお披露目であったと言えよう。

中止・変更した周年事業とその対応

さて、このように種々準備していた周年事業の行事ではあるが、ほぼ中止となった。上記に挙げた計画のなかで実施できたのは式典の開催と140周年記念誌の刊行、そして後述するイベントの実施のみである。しかも式典も大きく縮小した形での開催となった。式典開催にあたっては、中止の声も挙がったそうであるが、コロナ禍における周年事業の在り方を今後に残す意味でも、せめて式典だけでも行いたいという上層部の意向を受け、開催



の運びとなった。ただし、新型コロナの集団感染を避けるために以下のような対策がとられた。

- ①参加人数の縮小（学内者を中心に100名弱）
- ②参加者へのマスク着用と体温検査の徹底
- ③司会者席・登壇者席へのシールド設置
- ④校歌の齊唱から独唱への変更
- ⑤式典時間の短縮
- ⑥記念品などの手渡しを避け、座席に配付
- ⑦飲食をともなう祝賀会の中止

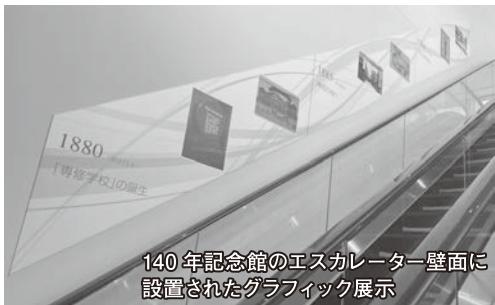
以上のことを行ったうえでの実施ということで、参加者からは少し寂しかったという声も聞かれたが、その後の感染の報告もなく、無事、式典を終えることができた。

一方、記念誌の方は、こちらも創立150周年では大半のものを作成する予定であるため、今回は、ここ10年の専修大学の動向を紹介する写真を中心とした小冊子(32p)とすることが、昨2019年7月の時点で決定していた。そのため幸いなことに、編纂に際して学外調査の必要性がほとんどなかったため、新型コロナの影響は少なく、当初の予定通りに刊行することができた。

ちなみに、同年、専修大学と同じく周年にあたっていた附属校である専修大学松戸高校・中学・幼稚園においては、式典も含め、予定されていた種々の記念行事は中止され、現在のところ、実施を予定しているのは記念誌の刊行のみである。

そのほか、当初予定していなかった事業も行った。新校舎のエスカレーターの壁面における常設のグラフィック展示である。これは専修大学140年の歴史を写真で紹介した展示であるが、今後、展示内容を変更できるように、張り替え式を採用している。しかし、エスカレーターの利用者がどこまでこうした展示に関心を持つのか、また利用者によって行きたい階が違うために、展示内容のメインをどの階に持つべきか、まだ不明な

点も多く、今後の展示方法についていくつもの課題が残された。



おわりに

新型コロナの影響がいまだ続いている、多くの大学で対面式の講義が始まったとはいえ、ほとんどの学生は来校できていない。専修大学も同様である。ましてや来年度の見通

しもついていない状況であるため、延期した周年事業をどうするかの目途もなんら立っていない状況である。

そんななか、多くの大学が積極的に行ってているのが、オープンキャンパスや大学祭などイベントのオンライン開催である。専修大学でも周年事業として開催を予定していたイベントの一つ（「神田神保町の魅力」）をオンラインで開催して、YouTubeで配信する形に変更した。こうしたオンライン化の流れは、新型コロナが収束した後も大なり小なり続くと考えられる。今回、専修大学ではコロナ禍のなかで周年事業の実行を強いられたわけであるが、ある意味では、周年事業も含めた大学史活動の在り方の見直しを考える良い機会にもなったと言える。

コロナ禍における大学史関連業務の現状について： HOSEIミュージアムの場合

HOSEIミュージアム所員 古俣 達郎

HOSEIミュージアムは「法政大学の過去・現在・未来、そして法政大学の三キャンパスをリアルとデジタルで繋ぐ、『人・地球社会の持続可能性』のための実験型ミュージアム」をコンセプトに構想され、2020年4月、その第一歩となる、ミュージアムの中核施設（ミュージアム・コア）を法政大学市ヶ谷キャンパスに開館する予定であった。

しかし、開館を目前に控えた同年3月、日本国内でのコロナウイルスの感染拡大、そし

て、緊急事態宣言の発出により、その延期を余儀なくされた。開館に向けて、最終調整に追われる最中のことであり、新設のミュージアムとして苦難の多いスタートとなったことは疑い得ない。

その後、学内者に限定した開館期間（6月22日～9月30日）を経て、10月1日から一般公開を開始しているが、コロナ禍の中、未だ残されている課題は多く、新たに着手しなければならない取り組みも多々発生している。

今回の報告会では、緊急事態宣言発出後のHOSEIミュージアムの開館状況を説明した後、HOSEIミュージアムにおけるコロナウイルス感染予防対策や今後の課題について報告を行った。

I. HOSEIミュージアムの開館状況

上述の通り、HOSEIミュージアムは2020



年4月の開館を予定していたが、緊急事態宣言発出のため、当面の間、開館延期となつた。

この間、事務局では延期となつた各種イベント（開館に伴うオープニングセレモニーや内覧会など）への対応に追われていたが、5月25日の緊急事態宣言の解除前後から、再度、開館時期の検討をはじめた。結論としては、緊急事態宣言の解除から約1ヶ月後の6月22日から学内限定で開館することとなつたわけであるが、この時期に開館に踏み切った理由としては、コロナウイルス感染拡大の第二波が早い段階で発生するという、学内の危機対策本部の予測があった。もし、第二波が早期に発生する可能性が高いのであれば、感染状況が落ち着いているこの時期に開館をしないと、年度内の開館が危ぶまれたのである。

また、HOSEIミュージアムの場合、法政大学の本キャンパスとは少し離れた独立型の校舎（新設の九段北校舎1階）に位置していることもこの時の開館に際して有利に働いた。おそらく、多くの大学博物館が再開に踏み切ることができないのは、本キャンパス内に博物館が位置しているためであろう。キャンパスが封鎖され、学生たちの入構を制限されている中、博物館のみが開いているという状況は考えにくいのである。その点、HOSEIミュージアムは特殊な事例と言えよう。

なお、10月1日以降の一般開館後は、未だ対面授業は一部の科目のみであることから、学生たちの来館は少ないものの、教職員、OB・OG、出入り業者、関係者などを中心に、徐々に来館者は増加しつつある。

II. コロナウイルス感染予防対策とその問題点

開館後のコロナウイルス感染予防対策については、国際美術館会議（CIMAM）、国際

博物館会議（ICOM）が発表した指針等をもとに作成し、フィジカルディスタンスの確保、飛沫感染防止用透明ビニールシートの設置（受付部分）、頻繁な消毒、検温の実施、マスクの着用と来館者情報シート記入のお願いなど、一般的な予防対策を講じている。

HOSEIミュージアム独自のコロナ対策としては、使い捨てのプラスチック製手袋の活用を挙げることができる。これは、大学の歴史に関する展示において、計4台のタッチパネル式デジタルサイネージおよびタブレットが展示の中心となっていること、また、企画展示のスペースではハンズオン展示が展開されていることが理由で、物体を介した接触感染の予防が目的である。

ただし、今夏のような猛暑の中では、いかに薄手の手袋といえども、不快感が大きいものであったことは否めず、現在では、デジタルサイネージ・タブレットについては、タッチペンの利用を基本としている。タッチペンは使用するたびに消毒を行う必要があるが、

**新型コロナウイルスの感染予防・拡散防止のため、
ご来館の際は、以下についてご理解、ご協力をお願いいたします。**

【ご来館の皆様へのお願い】

1. 本館では、入館時に手指の消毒、検温及び連絡先の記載等の対応を行っています。ご協力をお願いいたします。連絡先等収集した情報は、当館で新型コロナウイルス感染症の疑いが生じた場合の当館からのご連絡、保健所など医療機関への情報提供のために使用し、目的外の利用は致しません。また収集した情報は一定期間経過後確実に破棄いたします。
2. 以下に該当される方につきましては、ご入館をお控えいただきますようお願いいたします。
 - * 発熱や咳、くしゃみ、鼻水などの風邪の症状がある方。
 - * 体調がすぐれない方。
 - * 過去2週間に内に発熱や風邪の症状等で受診や服薬等をした方。
3. 館内では激しい咳を込まれるなど、風邪のような症状のある方には、見学をご遠慮いただく場合があります。
4. マスクの持参、着用をお願いとともに、咳やくしゃみをされる際は、マスク、ハンカチ、ティッシュなどで口をしっかりと覆う「咳エチケット」にご協力ください。
5. デジタルサイネージ、デジタルアーカイブ利用時にはビニール手袋の使用をお願いします。
6. 館内では他の方と適度な距離を保ってご観覧ください。
7. 当面、ミュージアム内の最大滞在人数を15名程度とさせていただきます。混雑状況によっては入館をお待ちいただくことがあります。
8. 当面の間、10名を超える団体利用の受入れを中止いたします。

※連絡先は右のQRコードより所定のフォームに入力ください



来館者掲示用の感染予防対策

利用者の観点からすれば、使い捨ての手袋よりは快適で、操作性の点でも問題はない。一方で、ハンズオン展示については、これまでと同様、使い捨て手袋の装着をお願いしており、何らかの方策がないか、お知恵をいただきたい点である。

タッチパネルにしてもハンズオンにしてもインタラクティブな展示を意図したものであったが、上で述べた対策が必要となるなど、コロナ禍では裏目に出たわけである。

III. 今後の課題—第三波？に備えて。—

最後に、HOSEIミュージアムが抱えている今後の課題について述べておきたい。

第一に、今後の企画展示についてである。すでに、展示のスケジュールが大幅にずれ込んでいることもあるが、仮に、感染拡大の第三波？が襲来し、より行動が制限されるような状況になった場合、展示自体が開催できない恐れがある。

この点に関連して、研究会では専修大学の瀬戸戸龍一氏からYouTubeLive配信イベント「神田神保町の魅力—コロナ禍からの再出発—」（2020年10月31日配信）、國學院大學の渡邊卓氏からYouTubeを活用した國學院大學博物館オンラインミュージアムについて、それぞれ紹介いただいた。本学でも両校の事例に学びながら、オンラインでの展示に切り替えるなどの措置を検討しなければならないだろう。元々、HOSEIミュージアムは敷地面積が狭いため、デジタルを全面的に活用する方針であり、現在、検討を始めたいと考えているのは、先に紹介したデジタルサイネージのコンテンツをオンライン上で公開する仕組みである。同サイネージは本学の創立者である薩埵正邦を始め、G.E.ボアソナード、梅謙次郎ら明治期の法学者、大正期から昭和前期にかけて本学の教員であった、野上豊一郎、内田百閒ら夏目漱石門下の作家・文

学者や京都学派の三木清、戸坂潤、そして、戦後における本学の立役者であった総長経験者（経済学者の大内兵衛、憲法学者の中村哲）を特集したもので、既に画像データとテキストデータは作成済のため、システムさえ完成すれば、コンテンツの移行はそれほど難しいものではない。

第二は、校友を中心とした寄付者をはじめ、開館に際してご助力を賜った方々への返礼ができていないことである。当面、多くの来場者を集めるイベントを実施することは不可能であろうが、何らかの代替策を考案しなければならないだろう。また、HOSEIミュージアムの開館に際しては、ヒアリングや視察にご協力いただくなど、東日本部会の会員校の皆様に多大なるご支援・ご助力を賜った。未だ、皆様に御礼ができていないことを大変心苦しく思っている。

最後に、コロナ対策を両立しながら、来館者をどのように増やしていくのかという点である。とりわけ、学生団体、付属校生、保護者、そして、同窓会などは多人数での来館が予測されるが、そのような場合であっても安心して展示を観覧できるよう、今後とも適切な対策を講じていかなければならぬ。

以上、コロナ禍における大学史関連業務の現状について、HOSEIミュージアムの事例をもとに報告した。第三波が果たして襲来するか否かはさておき、「ウィズコロナ」もしくは「アフターコロナ」の時代が現出するなか、大学博物館・大学史関連セクションが直面している様々な課題を巡って、今後とも協議会で議論を深めていきたいと考えている。

〈参考URL〉

- ・専修大学創立140周年・商学部神田移転記念事業「神田神保町の魅力—コロ

ナ禍からの再出発ー」：<https://www.senshu-u.ac.jp/education/faculty/commerce/140Syuunen-kandaiten/Kandajinboutyononomiryoku.html>
 • 國學院大學博物館オンラインミュージアム：<http://museum.kokugakuin.ac.jp/>

[event/detail/online_museum](#)
 • HOSEIミュージアム：<https://museum.hosei.ac.jp/>
 • HOSEIミュージアムデジタルアーカイブ：<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>

コロナ禍における早稲田大学大学史資料センター関連業務の現状

早稲田大学大学史資料センター 田中 智子

はじめに

新型コロナウィルス感染拡大および緊急事態宣言の発令により、当センターの業務も多大なる影響を受けた。本学では緊急事態宣言発令に伴い、4月8日から7月5日まで原則全教職員（派遣社員・アルバイトを含む）在宅勤務となつたため、当センターも業務の一部停止や計画の変更を余儀なくされた。以下、当センターの基本業務である（1）レファレンス関連業務、（2）『早稲田大学百五十年史』編纂関連業務それぞれについて、在宅勤務期間中の業務の状況、および現在（2020年10月時点）の状況について述べていく。

1. 在宅勤務期間中の業務の状況

（1）レファレンス関連業務の主なものには、①資料の収集・整理・保存、②資料の公開（閲覧、画像利用等）、③展示会がある。このうち①については基本的に休止、②についても閲覧は完全休止となった。画像利用はデータベース掲載のもので、メールにて期限までに申請があったもののみ許可していた。③については、春季企画展（例年3月下旬～4月下旬開催）、および新収資料展（例年6月上旬～8月上旬開催）の2つが今年度は中止となった。原因としては、開催場所である早稲田大学歴史館ほか、学内の博物館相当施設が全て休館となつたことがあげられる。これにより、秋季企画展（例年9月下

旬～11月上旬開催）も、開催の見通しが立たなくなつた。

次に（2）『早稲田大学百五十年史』編纂関連業務であるが、主な業務としては①原稿の執筆・編集と②データベースの構築の2つがある。このうち①について、第1巻刊行（2022年3月予定）に向けて原稿の執筆・編集を進めていたが、この間完成原稿が提出されず、校正等の編集作業も進められない状況に陥った。原因としては、学内外の図書館・資料館の休館、オンライン授業対応による執筆担当教員の多忙化があげられる。また、編纂関連の会議（150年史専門委員会・編纂委員会）やスタッフ間の打ち合わせも、メールによる持ち回り審議となり、意見の集約が難しい状況になった。

②については、Web版150年史資料集として、「早稲田大学文化資源データベース」（<https://archive.waseda.jp/archive/>）上に種々のデータベースを公開していたが、新規公開が困難になった。原因としては、学内ネットワークへのアクセスが出来なくなったことにより、公開直前の確認ができなくなつたためであるが、既存のデータベースの拡充・更新であれば、直前確認なしでも何とか公開可能であることに気付いた。以降、この既存のデータベースの拡充・更新が、在宅勤務期間中の中心業務になつていった。アルバイトと手分けしてメタデータ作成作業を行い、現

在までに下記のデータベースの拡充・更新を行った。また新規データベースの構築準備も行った。

早稲田人名データベース (追加63件、修正71件)

戦争犠牲者データベース
(誤記や不備について修正)
『早稲田学報』記事データベース
(記事データ358件追加)

東京都公文書館所蔵 早稲田関係資料データベース (資料画像220点追加)

【画像1】早稲田大学文化資源データベース



【画像2】秋季企画展ポスター

2. 2020年10月現在の状況

7月6日より、原則として全教職員通常勤務、事務所の開室は11時～15時となった。

(1) レファレンス関連業務については、資料の閲覧・複写・寄贈・移管等は休止が続いている、資料の複写物の出版掲載・放映等利用受け付けはデータベース掲載のものに限り受け付けている。秋季企画展「早稲田で学ぶー時代のなかの学生と学問ー」については、9月25日に学内の博物館相当施設が再開したことにより、内容・開催期間を縮小して10月2日から30日まで開催した。

(2) 『早稲田大学百五十年史』編纂関連業務については、通常勤務が再開し、資料や文献を参照できるようになったことにより、原稿の執筆・編集はやや加速した。また、編纂関係の会議や、業者等との打ち合わせは基

本的にZoomで開催するようになった。他の業務も順次再開していく反面、原稿の執筆・編集等に比して優先度が低かったデータベース構築は停滞するようになっていった。

おわりに

—コロナ禍における業務を振り返って—

以上、コロナ禍における当センターの業務の状況について述べてきた。多くの業務が停止状態となるなどデメリットが多かったが、収穫も2つほどあった。一つは、これまであまり時間を割くことができなかつたデータベースの拡充・更新に注力できしたことである。実

際に資料を見たりふれたりすることができなくなった分、データベースの重要性について認識できた。もう一つは、会議や打ち合わせが対面だけではなく、メールやZoomなど多様な方法で行われるようになったことである。当センターは大学本部とは離れた場所にあるため、会議を開催するには準備と移動にそれなりの労力と時間を要したが、それが手軽にできるようになった。しかし、オンラインでの会議は便利である反面、通信環境の問題や発言者が限定されてしまう問題もあるので、それらをクリアしていくことが今後の課題である。

第119回研究会に参加して

日本大学企画広報部広報課 松原 太郎

2020年7月に開催予定であった全国大学史資料協議会東日本部会の第119回研究会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となり、10月1日（木）、オンラインで開催された。テーマは「コロナ禍における大学史関連業務の現状」というもので、3名からの報告の後、質疑応答・討論が行われ、東日本部会会員56名が参加した。

第1報告は専修大学大学史資料室の瀬戸口龍一氏から、「コロナ禍における専修大学の周年事業」と題して、本年140周年を迎えた専修大学の周年事業について報告があった。専修大学は当初予定していた規模を縮小して本年9月に140周年記念式典を開催したという。また、周年記念事業の多くは中止を余儀なくされたが、記念誌の発行、新校舎でのパネル展示などを実施し、さらに、商学部神田移転記念事業としての地域連携事業については、対面形式のシンポジウムをオンラインイベントに変更して開催する予定とのことであった。

第2報告は法政大学の古俣達郎氏より本年

開館したHOSEIミュージアムの現状について報告された。HOSEIミュージアムは本年4月に開館予定であったが、コロナの影響で開館が延期となり、研究会当日の10月1日から一般に公開された。開館にあたっては、コロナウイルス感染予防対策として、マスク着用、手指消毒の他、ハンズオン展示利用のためのビニール手袋の用意、人数制限、フィジカルディスタンスの確保などの措置をとったとのことであった。今後の課題として、数年間の展示テーマを決めていたが、コロナ禍やオリンピック延期等の影響により、展示テーマのサイクルを修正しなければいけないこと、オンラインミュージアムのさらなる促進、寄付者への御礼などを挙げていた。

周年事業や展示施設のオープンなどは毎年実施される事業ではないので、本年のコロナ禍の状況にタイミングが合ってしまった大学は大変な苦労をされたようである。周年事業の開催には数年かけて準備しているわけであり、今年度に入ってのコロナによる急遽の予定変更はさらなる業務負担を生じたことであ

ろう。

第3報告は早稲田大学大学史資料センターの田中智子氏から、年史編纂やレファレンス業務の現状についての報告があった。早稲田大学は緊急事態宣言発令に伴い、4月8日から7月5日まで、原則全教職員が在宅勤務となった。在宅勤務期間中は資料収集・整理・保存作業、資料の閲覧等は休止となり、展示会も休止となった。通常勤務に戻ってからは資料の閲覧、寄贈、移管受付などは休止のままで、秋季企画展については、規模、開催期間を縮小して開催される予定とのことであった。編纂業務については、在宅勤務時はメールのやり取りのみで、この間は既存のデータベースの拡充・更新作業を進めていた。通常勤務に戻ってからは会議や打ち合わせはZoomで実施し、在宅勤務時よりも執筆・編集に力を入れるようになったという。

報告に統いて、質疑応答、全体討論に移った。最初に展示の開館状況についての話題となり、HOSEIミュージアムの他、早稲田大学歴史館、國學院大學博物館、明治大学博物館、立教学院展示館などの開館状況について説明があった。明治大学博物館、立教学院展示館は現在閉館中だが開館を検討中のことである。

周年事業については、女子美術大学が本年120周年を迎える、展覧会はオンラインでの開催となり、その他、創立者のドラマを現在制作中という報告があった。明治大学は来年の140周年に向けて、本年、校舎の取り壊しに関連するイベントを検討していたが中止となり、そのかわりに建物の形状計測や動画、3Dなどの記録を重視して資源を投入したという。

次にコロナ禍により通常業務の遂行が困難な状況下で、どのような業務を進めたかという話題に移

った。多くの大学が在宅勤務時にデータベースの拡充やデジタル化作業に取り組んでいたことがわかった。現在の新型コロナウイルス関連の文書等を積極的に収集しているという東洋英和の発言も興味深かった。

法政大学の高柳氏からは対面授業が難しい現状の中、資料配布型授業の利点として、対面授業よりもポイントを絞った授業ができたこと、自校だけでなく他大学のデータベースなども活用することで、自校史の相対的な理解につながったことなどが指摘された。

最後に明治大学の村松氏から9月18日現在の各大学展示施設の開館状況についてコメントがあった。3割ほどの施設が開館しているが、展示施設を有していない大学史のセクションについては、そのほとんどがホームページ上では開室しているかわからなかったという。大学アーカイブズは外部の人に利用してもらうことも使命なので、外部への積極的な情報発信も必要ではという指摘で研究会は終了した。

今回の研究会はコロナ禍の状況下、各大学史部署がどのように業務を進めているかということの情報共有の場として開催された。終息がみえないコロナ禍の中で、何かとマイナス面ばかりが強調される現在ではあるが、今回の研究会で得た知見を踏まえて、大学史業務の見直しやさらなる情報発信を進めていきたいと感じた次第である。



**全国大学史資料協議会東日本部会
2020年度総会記録
書面決議結果**

2020年5月28日に開催を予定していた東日本部会総会は、新型コロナウイルス蔓延の影響により延期となった。対面形式による総会の開催が困難な状況のため、本年度の総会は書面による開催とした。6月12日に総会資料を会員へ送付し、会員総数103のうち、過半数の60会員から回答を得たので、書面による今回の総会が成立した。回答結果は以下の通りである。

東日本部会会員数

機関会員67機関

個人会員36会員

合計103会員

書面決議結果回答 合計60通

※書面決議の結果、第1号議案から第6号議案について承認された。

第1号議案 2019年度事業報告について

【賛 60 否 0】

第2号議案 2019年度決算報告について

【賛 60 否 0】

第3号議案 2020年度事業計画案について

【賛 60 否 0】

第4号議案 2020年度予算案について

【賛 60 否 0】

第5号議案 2020～2021年度役員案につ

いて

【賛 60 否 0】

第6号議案 2020年度年会費の徴収につ

いて

【賛 59 否 0】

[補足説明]

第5号議案 2020～2021年度 役員案について

会員からの立候補・推薦の連絡はなかったため、幹事会提案の役員案が承認された。

第6号議案 2020年度年会費の徴収について

本議案が承認されたため、本年度の個人会員の年会費は徴収しない。機関会員については、8月中に請求書を送付した。

[配付資料]

1. 総会次第
2. ご挨拶
3. 2019年度 事業報告書
4. 2019年度 収支決算書
5. 2019年度 貸借対照表・監査結果
6. 30周年記念事業関連経費内訳
7. 2020年度 事業計画書（案）
8. 2020年度 収支予算書（案）
9. 2020～2021年度 東日本部会役員案
10. 2020年度年会費の徴収について
11. 東日本部会 会員名簿

（記載内容確認用）

全国大学史資料協議会東日本部会

2019年度収支決算書

2019年4月1日～2020年3月31日

収入					(単位:円)
項目	予算	決算	増減	摘要	
会費収入	1,520,000	1,515,000	5,000		
法人等会員	1,340,000	1,360,000	△ 20,000	68機関分 × 20,000円	
個人会員	180,000	155,000	25,000	31名分 × 5,000円(※個人会員3名滞納)	
利息収入	1,000	50	950		
預貯金利息	1,000	50	950	預金利息	
参加費収入	470,000	529,000	△ 59,000		
部会総会参加費	195,000	159,000	36,000	53名分 × 3,000円 (5月30日 東京経済大学)	
全国総会参加費	275,000	370,000	△ 95,000	74名分 × 5,000円 (10月16日～18日 立教大学)	
寄付金収入	0	30,000	△ 30,000		
寄付金収入	0	30,000	△ 30,000	元個人会員1名より寄付	
雑収入	0	0	0		
雑収入	0	0	0		
30周年記念事業積立金繰入収入	0	0	0		
30周年記念事業積立金繰入収入	0	0	0		
合計	1,991,000	2,074,050	△ 83,050		

支出					(単位:円)
項目	予算	決算	増減	摘要	
運営費支出	50,000	4,564	45,436		
総会費	20,000	0	20,000		
幹事会費	10,000	0	10,000		
部会研究会費	20,000	4,564	15,436	施設利用料(研究会・電気通信大学)等	
謝礼支出	80,000	24,548	55,452		
講師謝礼等	80,000	24,548	55,452	講演謝金(2名分)、同源泉所得税	
消耗品費支出	10,000	194	9,806		
消耗品費	10,000	194	9,806	事務用品代等	
印刷費支出	500,000	399,489	100,511		
印刷費支出	500,000	399,489	100,511	会報No60(前年度未払分)、No61、No62印刷費	
通信費支出	180,000	129,546	50,454		
事務連絡費	180,000	129,546	50,454	会員連絡費、会報発送費(前年度No.60未払分および今年度No.61・No.62分)、通信物切手料金等	
手数料支出	10,000	4,040	5,960		
手数料等	10,000	4,040	5,960	金融機関送金手数料他	
参加費支出	550,000	467,689	82,311		
総会参加費	550,000	467,689	82,311	部会総会情報交換会費、全国総会分担金(※西日本分担金134,846円)	
旅費交通費	0	0	0		
旅費交通費	0	0	0		
事業費支出	2,690,910	2,492,373	198,537		
出版事業	250,000	150,048	99,952	研究叢書20号(※東日本分担金150,048円)	
その他	0	0	0		
ホームページ事業	100,000	47,749	52,251	ウェブサイト契約料(※西日本分担金40,181円)等	
30周年記念事業	2,340,910	2,294,576	46,334	記念展示制作費、記念展示図録制作費等	
ホームページ改善積立金	0	0	0		
30周年記念事業積立金繰入支出	0	0	0		
予備費	50,000	0	50,000		
合計	4,120,910	3,522,443	598,467		

当年度収支差額	△ 2,129,910	△ 1,448,393	—	
前年度繰越収支差額	5,669,035	5,669,035	—	
翌年度繰越収支差額	3,539,125	4,220,642	—	

2019年度貸借対照表

2020年3月31日

資産					(単位:円)
項目	本年度末	前年度末	増減	摘要	
30周年記念事業積立金	0	0	0		
三井住友銀行	0	0	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金	
ホームページ改善積立金	600,000	600,000	0		
三井住友銀行	600,000	600,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金	
銀行預金	4,132,429	5,622,424	△ 1,489,995		
三井住友銀行	4,132,429	5,622,424	△ 1,489,995	三井住友銀行 経堂支店普通預金	
現金	88,213	46,611	41,602		
事務局校	21,685	21,685	0	立教学院	
会計校	66,528	24,926	41,602	東海大学	
合 計	4,820,642	6,269,035	△ 1,448,393		

負債・収支差額					(単位:円)
項目	本年度末	前年度末	増減	摘要	
負債	600,000	600,000	0		
30周年記念事業引当金	0	0	0		
ホームページ改善引当金	600,000	600,000	0		
収支差額	4,220,642	5,669,035	△ 1,448,393		
収支差額	4,220,642	5,669,035	△ 1,448,393		
合 計	4,820,642	6,269,035	△ 1,448,393		

2020年 4月 1日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 隆士 ㊞

神奈川大学 齋藤 研也 ㊞

神奈川大学 大坪 潤子 ㊞

2020年 4月 13日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 専修大学 濑戸口 龍一 ㊞

学習院 桑尾 光太郎 ㊞

全国大学史資料協議会東日本部会
2020年度収支予算書（案）
 2020年4月1日～2021年3月31日

収入					(単位:円)
項目	2020年度予算	2019年度予算	増 減	摘要	
会費収入	1,565,000	1,520,000	45,000		
法人等会員	1,360,000	1,340,000	20,000	68機関 @20,000円 (2019年度は67機関)	
個人会員	205,000	180,000	25,000	35名 @5,000円 (他、滞納6口分)	
利息収入	1,000	1,000	0		
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息	
参加費収入	350,000	470,000	△ 120,000		
部会総会参加費	150,000	195,000	△ 45,000	50名 @3,000円 (2020年度は法政大) ※2019年度は東経大53名	
全国総会参加費	200,000	275,000	△ 75,000	40名 @5,000円 (2020年度は関西学院大) ※2019年度は立教大74名	
雑収入	0	0	0		
雑収入	0	0	0		
合 計	1,916,000	1,991,000	△ 75,000		

支出					(単位:円)
項目	2020年度予算	2019年度予算	増 減	摘要	
運営費支出	50,000	50,000	0		
総会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料、非課税交通費他	
幹事会費	10,000	10,000	0	会場費・設備使用料他	
部会研究会費	20,000	20,000	0	会場費・入場料・飲料代他	
謝礼支出	80,000	80,000	0		
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費	
消耗品費支出	10,000	10,000	0		
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費	
印刷費支出	400,000	500,000	△ 100,000		
印刷費支出	400,000	500,000	△ 100,000	会報印刷費 (No.63およびNo.64 年2回分)	
通信費支出	150,000	180,000	△ 30,000		
事務連絡費	150,000	180,000	△ 30,000	会員連絡費、会報送付料 (No.63およびNo.64 年2回分)	
手数料支出	10,000	10,000	0		
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他	
参加費支出	500,000	550,000	△ 50,000		
総会参加費	500,000	550,000	△ 50,000	情報交換会費 (5月部会総会、10月全国総会)、その他	
旅費交通費	0	0	0		
旅費交通費	0	0	0		
事業費支出	350,000	2,690,910	△ 2,340,910		
出版事業	250,000	250,000	0	叢書21号印刷費(東日本部会分担金)、その他	
その他	0	0	0		
ホームページ事業	100,000	100,000	0	維持管理金	
30周年記念事業	0	2,340,910	△ 2,340,910		
ホームページ改善積立金	0	0	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費	
予備費	50,000	50,000	0		
合 計	1,600,000	4,120,910	△ 2,520,910		

当年度収支差額	316,000	△ 2,129,910	—	
前年度繰越収支差額	30,436	2,160,346	—	
翌年度繰越収支差額	346,436	30,436	—	

30周年記念事業関連経費の収支決算内訳

(2020.03.31現在)

※2010年度より2014年度まで毎年度500,000円ずつ積立。

(2018.5.31総会において積立金の予算繰入が承認された金額)		計	2,500,000	※30周年記念事業積立金
-----------------------------------	--	---	-----------	--------------

経費内訳

収 入	(大費目)	(小費目)	内 容	金 額	備 考	
	30周年事業費	展示事業費	記念展示「『新しい大学』の誕生」(2019.10.12~開催予定)諸経費等	1,100,000	※制作費・作業費等	
	30周年事業費	ホームページ事業費	会員機関紹介サイトリニューアル費等	600,000		
	30周年事業費	出版事業費	記念講演・シンポジウムの記録報告書(A5判、300部)制作費等	500,000		
	30周年事業費	その他	チラシ印刷・発送費、記念事業関連謝礼等、振込手数料、関連事務連絡費等	300,000		

2018年度執行支出内訳(決算済み)

支 出	(大費目)	(小費目)	内 容	金 額	備 考	証憑No.
2018.05.08	30周年事業費	その他(印刷費)	30周年記念講演会チラシ(ジー・プロード)	46,440		5
2018.05.08	30周年事業費	その他(手数料)	30周年記念講演会チラシ(ジー・プロード) ※振込手数料分	432		5
2018.05.30	30周年事業費	その他(講師謝礼等)	荒川章二氏記念講演謝金(引き出し)	30,000		9
2018.05.31	30周年事業費	その他(講師謝礼等)	記念会場支援の國學院学生への謝礼(クオカード2,000円×5)	10,000		44
2018.06.04	30周年事業費	その他(講師謝礼等)	荒川章二氏記念講演交通費(振込)	16,580		11
2018.06.04	30周年事業費	その他(手数料)	荒川章二氏記念講演交通費(振込) ※振込手数料分	216		11
2018.08.27	30周年事業費	出版事業費	30周年記念講演会・シンポジウムテープ起こし(反訳代、IPパートナーズ)	37,584		16
2018.08.27	30周年事業費	その他(手数料)	30周年記念講演会・シンポジウムテープ起こし(反訳代、IPパートナーズ) ※振込手数料分	432		16
2018.04.27	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用レターバックライト(4点)購入代	1,440		32
2018.04.27	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代(140円×25枚、250円分×13枚)	6,750		33
2018.04.27	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代(宅急便、会報とともに送付する分を印刷所 へ)	1,261		34
2018.05.07	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代(140円×1枚)	140		35
2018.05.11	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代(140円×1枚)	140		36
2018.05.30	30周年事業費	その他(消耗品費)	芳名帳と筆ペン代(記念講演会受付用)	1,070		38
2018.06.01	30周年事業費	その他(消耗品費)	記念シンポジウムバナリスト飲料×8本(@100) ※自販機購入のため証憑無し(会計承認済み)	800		41
2018.05.30	30周年事業費	その他(印刷費)	記念講演会・シンポジウム資料コピー代 ※専修大学立替分	4,320		42
2018.05.30	30周年事業費	その他(消耗品費)	記念講演会・シンポジウム資料紙代 ※専修大学立替分	1,485		43

2018年度支出小計 159,090

2019年度執行分支出内訳

支 出	(大費目)	(小費目)	内 容	金 額	備 考	証憑No.
2019.04.26	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演者・荒川章二氏へ謝金領收書送付用切手代(往復、82円×2枚)	164		東海 1
2019.04.26	30周年事業費	その他(講師謝礼等)	荒川章二氏記念講演録校閲謝金(振込)	20,000		6
2019.04.26	30周年事業費	その他(手数料)	荒川章二氏記念講演録校閲謝金(振込) ※振込手数料分	324		6
2019.05.31	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演者・荒川章二氏へ講演録5部送付ゆうメール代	350	※専修大学立替	東海 4
2019.05.31	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演者・荒川章二氏へ講演録5部送付ゆうメール代証憑送付切手代(82円×1枚)	82	※専修大学立替	東海 5
2019.06.04	30周年事業費	その他(事務連絡費)	記念講演録送付ゆうメール代(荒川5、渡邊5、松崎3、西山3)	1,300	※専修大学立替	東海 7
2019.06.04	30周年事業費	出版事業費	『創立30周年記念講演会・シンポジウムの記録』(300部、印刷・版下・梱包発送代)(株式会社勝栄社)	356,400		12
2019.06.04	30周年事業費	その他(手数料)	『創立30周年記念講演会・シンポジウムの記録』(300部、印刷・版下・梱包発送代)(株式会社勝栄社) ※振込手数料分	216		12
2019.06.11	30周年事業費	ホームページ事業費	創立30周年記念事業大学史資料所蔵機関紹介ページのツール開発・サイト設定・ファイル出力作業(株式会社ジェイピー・ドットコム)	503,280		15
2019.06.11	30周年事業費	その他(手数料)	創立30周年記念事業大学史資料所蔵機関紹介ページのツール開発・サイト設定・ファイル出力作業(株式会社ジェイピー・ドットコム) ※振込手数料分	540		15
2019.06.12	30周年事業費	その他(事務連絡費)	東経大より記念講演録残部送付宅配便代	1,361	※専修大学立替	東海11
2019.07.03	30周年事業費	出版事業費	『創立30周年記念講演会・シンポジウムの記録』(追加の梱包発送代)(株式会社勝栄社)	10,011		16
2019.07.03	30周年事業費	その他(手数料)	『創立30周年記念講演会・シンポジウムの記録』(追加の梱包発送代)(株式会社勝栄社) ※振込手数料分	108		16
2019.11.11	30周年事業費	展示事業費	創立30周年記念展制作費(株式会社立教オフィスマネジメント)	1,100,000	協議会分担金分	20
2019.11.11	30周年事業費	その他(手数料)	創立30周年記念展制作費(株式会社立教オフィスマネジメント) ※振込手数料分	220		20
2019.12.18	30周年事業費	出版事業費	創立30周年記念展図録『新しい大学』制作費(株式会社立教オフィスマネジメント)	300,000	協議会分担金分	21
2019.12.18	30周年事業費	その他(手数料)	創立30周年記念展図録『新しい大学』制作費(株式会社立教オフィスマネジメント) ※振込手数料分	220		21
2019年度支出小計 2,294,576					総計 2,453,666	

※内訳別

展示事業費	記念展示「『新しい大学』の誕生」(2019.10.12～開催予定)諸経費等	1,100,000	1,100,000
ホームページ事業費	会員機関紹介サイトリニューアル費等	600,000	503,280
出版事業費	記念講演・シンポジウムの記録報告書(A5判、300部)制作費等	500,000	703,995
その他	チラシ印刷・発送費、記念事業関連謝礼等、振込手数料、関連事務連絡費等	300,000	146,391

支出総計 → ¥2,453,666
 総事業費 → ¥2,500,000
 残 高 → ¥46,334
 →通常資産へ繰り戻し

(以上、作成:東海大学)

全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録

第189回幹事会議事録

日 時 2020年6月4日（木）

14時00分～14時45分

ZoomによるWeb会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 帝京大学
東海大学 日本大学
武藏野美術大学 明治大学
立教学院
古俣達郎 檜皮瑞樹

議 題 (1) 2020年度東日本部会総会について

・事務局（日本大学）より、総会資料をメールで送付し、ホームページに回答欄を設けて決議を行う形式での開催について提案があり、了承された。

・本年度の年会費について、個人会員は徴収せず、機関会員についても申出があった会員校も検討の上で免除することを総会の議案として盛り込むことが了承された。

・2020年度東日本部会総会資料について事務局（日本大学）より提案があり、了承された。

(2) 2020年度東日本部会研究会について

・2020年度研究会担当及び記録の分担表について了承された。

・2020年度は対面形式での研究会開催が難しいため、Web会

議による研究会など、開催方法についても検討することとなった。

- ・全国研究会の開催・延期の判断について、東日本部会としては本年度担当の西日本部会の決定に従う旨が確認された。
- ・2020年度の東日本部会の年間テーマは、前年と同様に「大学史資料の活用と公開」に決定した。

(3) その他

- ・事務局（日本大学）より、個人会員2名入会の報告があった。
- ・叢書・会報担当（大東文化大学）より、会報62号の発行について報告があった。63号（2020年10月発行予定）については、今後の研究会開催などの動向を踏まえて発行するかを検討することとなった。研究叢書第21号は現在編集中で、全国研究会時の写真データの提供について担当より依頼があった。
- ・事務局（日本大学）より、アートドキュメンテーション学会の大會後援について報告があった。
- ・Web会議による研究会、幹事会が増えることが予想されるため、東日本部会でZoom等のアカウントを取得するかどうか検討する。
- ・次回幹事会は、総会決議の集計結果が出た時点で開催することになった。

第190回幹事会議事録

日 時 2020年8月20日（木）

14時00分～14時40分

ZoomによるWeb会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
 専修大学 東海大学 日本大学
 明治大学 立教学院
 古俣達郎 檜皮瑞樹

開会に先立ち、新任役員の紹介および挨拶があつた。

議 題 (1) 2020年度東日本部会総会について

- ・事務局（日本大学）より、7月30日、東日本部会総会の決議結果（第1号議案から第6号議案すべての議案承認）及び会員名簿をメールで会員に送付したことについて報告があつた。

- ・会計委員（東海大学）より、総会第6号議案の承認を受けて、個人会員に対する会費請求の免除と、機関会員に対する請求書の送付を準備していることについて報告があつた。

併せて会計委員から、本部会規約第15条において、7月末日までに会費納入の義務があることを定めているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により総会開催（書面）が遅れたことから、請求書を会員に送付する時期（8月末）と納入期限（10月末）がずれ込むことと、個人会員に対しては、今年度の会費納入免除と引き続き会務への協力を求める通知を発

送することについて報告があつた。

(2) 2020年度東日本部会研究会について

- ・前回の幹事会において提案された「コロナ禍における大学史関連業務の現状について」をテーマとするオンラインでの研究会を10月1日（木）開催することに決定した。

展示施設を有している会員、あるいは現在沿革史編纂にあたっている会員を中心に、報告者を3～4会員選定して各10分ほど現状報告をしていただく。その後出席者を含めた討論を行い、もって会員間の情報共有に資する。

なお報告者の選定は事務局と会長に一任することとした。

(3) その他

- ・会報「大学アーカイブズ」について、今年度研究会等の年間スケジュールに遅滞が生じていることから、予定されている第63号については、第64号と合併号にすることも可とし、今後、会報編集担当（大東文化大学）の意見等をふまえて最終的に判断することに決定した。

なお、合併号としない場合は、たとえば会員校主催のイベント（東京経済大学創立120周年記念展示「東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎」大倉集古館にて10月3日から25日開

催予定) 報告等を会報に掲載することも可能ではないか、との意見も出された。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での会議開催が困難であることから、価格と、請求書払い等が可能であるかを確認した上で、本部会Zoomアカウントを取得することに決定した。

- ・事務局より、現在編集が進んでいる研究叢書の編集の再校（8月31日午前中締切）について報告があった。

- ・事務局より、今年度の予定の変更に伴い、研究会担当のスケジュールを見直し、今後再度提案することについて報告があった。

- ・事務局より、承認済みの会員入会（個人会員 亀谷篤志 檜皮瑞樹）及び退会会員（機関会員 東京家政大学）、その他担当者交代および会員の機関名称変更について報告があった。

- ・全国総会の開催について、西日本部会からの回答を報告。総会は西日本部会主管で書面審議を実施すること、事前にオンライン全国役員会を開催することが提案され、了承された。なお全国役員会は、10月22日（木）に開催する方向で西日本部会と調整することが了承された。

- ・全国研究会は、会場・テーマはそのままで2021年度に延期すること、これについて会長校・副会長校連名の文書を会員に出すことが提案され、了承された。

(2) 2020年度研究会について

- ・2020年度研究会の幹事校分担表について提案があり、了承された。
- ・2020年10月研究会の参加記は事務局（日本大学）が担当することが提案され、了承された。

(3) その他

- ・ウェブシステム担当（神奈川大学）より、協議会ウェブサイトのスポット修正について報告があった。ウェブサイト修正の費用負担については西日本部会にも諮ることとなった。
- ・会計担当（東海大学）より、年会費の納入状況について報告があった。個人会員1名より納付があったが、今年度の方針に従い、すでに返金処理済みであることが併せて報告された。
- ・事務局（日本大学）より、協議

第191回幹事会議事録

日 時 2020年10月1日（木）

13時00分～13時45分

ZoomによるWeb会議

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 東海大学
日本大学 武藏野美術大学
明治大学 立教学院
古俣達郎 檜皮瑞樹

議 題 (1) 2020年度全国総会について

会としてZoomアカウントを取得し、会員校間の打ち合わせ等で使用可能となったことが報告された（期間は2020年10月から2021年9月まで）。現在は1アカウントのみであるが、今後必要が生じればアカウントを増やすことも検討することとなった。

- ・叢書・会報担当（大東文化大学）より、研究叢書21号の刊行・納品について報告があった。また会報63号については年内に刊行する予定であり、64号については今後の研究会等の開催状況を見て改めて検討することになった。
- ・事務局（日本大学）より、12月研究会、1月研究会の開催について報告があった。12月研究会は、オンラインで開催するかどうかを含め、後日改めて報告する。1月研究会は、2020年3月に神奈川大学で予定されていたものを改めて開催する方向で検討することになった。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録

第119回東日本部会研究会

日 時 2020年10月1日（木）

14時00分～16時00分

会 場 Zoomを利用したオンライン開催

出 席 愛知大学 お茶の水女子大学

神奈川大学 國學院大學 淑徳大学

上智大学 女子美術大学 成城学園

聖心女子大学 専修大学

大東文化大学 中央大学 帝京大学

東海大学 東京農業大学 東邦大学

東北学院 東洋英和女学院

東洋学園大学 東洋大学 獨協学園

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治学院

明治大学 立教学院 立正大学

早稲田大学

古俣達郎 齊藤浩次 谷本宗生

富田美加 橋本久美子 林慎一郎

檜皮瑞樹 松田栄作（以上56名）

司 会 松原太郎氏

（日本大学企画広報部広報課）

研究会テーマ 「コロナ禍における大学史関連業務の現状」

報 告 濑戸口龍一氏

（専修大学 大学史資料室）

「コロナ禍における専修大学の周年事業」

古俣達郎氏

（個人会員 法政大学 HOSEIミュージアム）

「コロナ禍における大学史関連業務の現状について：HOSEIミュージアムの場合」

田中智子氏

(早稲田大学 大学史資料センター)

「コロナ禍における早稲田大学大学史資料センター関連業務の現状」

〔概要〕 今回の研究会は、新型コロナ感染症拡大防止の観点からオンラインでの開催となり、「コロナ禍における大学史関連業務の現状」をテーマに、各会員校・会員から報告がなされた。

瀬戸口龍一氏（専修大学）の報告では、専修大学の周年事業について報告された。専修大学は今年創立140周年を迎えたが、コロナ禍により、各種周年事業の中止もしくは規模縮小を余儀なくされ、今後はオンラインイベントの開催などを予定しているとのことであった。

古俣達郎氏（個人会員。法政大学所属）の報告では、2020年4月に開館が予定されていたHOSEIミュージアムの現状について報告された。報告では、HOSEIミュージアムにおけるコロナ感染予防対策や今後の企画展の開催方法等の課題について説明があった。

田中智子氏（早稲田大学）の報告では、在宅期間中から現在までの年史編纂・レファレンス業務について報告された。在宅勤務により、年史関連の原稿執筆・編集作業などは一時遅延したが、データベースの拡充・更新に注力でき、その重要性についても認識が深まったとのことであった。

報告後には、松原太郎氏（日本大

学）の司会のもと、質疑・討論が行われた。質疑・討論では、各会員校が所属する大学博物館の開館状況について説明があり、周年事業については女子美術大学の取り組みが紹介され、各参加者からもコロナ禍での業務状況について報告が行われた。

（古俣達郎）

ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学企画広報部広報課(大学史)】

〒102-8275

東京都千代田区九段南4-8-24

TEL : 03 (5275) 8444

MAIL : nuhistory@nihon-u.ac.jp

【明治大学史資料センター】

〒101-8301

千代田区神田駿河台1-1

TEL : 03 (3296) 4085

MAIL : history@mics.meiji.ac.jp

会報編集

【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL : 03 (5399) 7646